



高小だより

津市立高茶屋小学校
令和6年 10月号
(文責：校長)

～高茶屋小大好き 前向きに取り組む子どもの育成～

全国学力・学習状況調査の結果について

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が、7月末に発表されました。今年度は、国語、算数が実施されました。教科調査以外に、児童生徒向け、学校向けの質問紙調査も行われています。児童生徒向けの質問紙調査には、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣を尋ねる質問や、規範意識、自己肯定感などについて尋ねる質問が含まれています。

三重県と津市の状況

右の表は、国、三重県、津市の平均正答率です。新聞などのマスコミでも報道があったように、今年も、県と津市は全国とほぼ同じ水準でした。高茶屋小学校は、津市や三重県の平均には届きませんでした。

	国語	算数
全国	67.7%	63.4%
三重県	67	62
津市	67	62

学力調査の問題の特徴

国語・算数ともに、児童の身の回りの問題をもとにまとめたような問題が例年多く出されており、文章、要約、図、グラフなど複数の資料を読み比べる内容になっています。それらの問題をみると、以前の知識重視ではなく、身の回りの問題を見つける問題を発見する力、それらをいろいろな教科で学んだことを活かしていく活用能力や主体的に問題を解決しようとする姿勢など、まさに「主体的・対話的で深い学び」が求められています。さらに、自分でまとめていく力だけでなくまとめた資料を理解するためには、今まで以上に読んで理解する力、要約してまとめる力、図や文を見比べて多くの資料から必要なものを選び取る力などが必要になります。

子どもたちに必要な力をつけていくために

近年、生成AIが話題になっています。多くのデジタル機器や情報をよりよく活用できる新しい力と、読み解く力などの従来から必要とされてきた力が、これから未来を生きていく子どもたちに求められています。



デジタル機器の活用では、本校児童は全国児童よりも活用しているという結果が児童質問紙に表れていました(毎日使用 本校79.5%、全国25.3%)。今後もタブレットの活用を効果的に進め、それらを使いながら、身の回りの問題をまとめる活動を行います。また、しっかり書く活動を行いながら、相手に伝わるようにまとめていく活動を行うなど様々な取り組みを行っていきます。

★本校児童が苦手としている問題と対策の一部を紹介します。

高茶屋小の特徴 『国語』では

右のように、グラフや文章を使って出題される問題で、特に60～100字程度でまとめる問題が、全国児童と同様に本校児童も毎年課題となっています。まとめたメモなどを文章に表す力が必要です。国語に限らず、様々な教科で自分の意見を読む人にわかるように書いたり、グラフや図を使って表したり読み取ったりする活動や、振り返りや意見、分かったことなどを書く機会を増やしていきます。文章のそれぞれの段落のまとまりを理解する力も課題がみられるため、文章の構成を意識させて授業を行うようにしていきます。

基本的な漢字の定着も課題です。漢字そのものを覚える、同じひらがなの場合どの漢字を使うかがわかる、語彙力（知っている言葉の数）を増やすため、漢字の書き取りに力を入れ、辞書で調べたり、本をたくさん読んだりするような活動も増やしていきます。

高茶屋小の特徴 『算数』では

一番正答率が低かったのは、ボールがぴったり入る立方体の体積を求める式を求める問題で、正解は「球の直径×球の直径×球の直径」です。「球の直径＝立方体の辺の長さ」に気づかなかったようです。

右の一番下の問題は、3分間分速200m、2分間分速200m自転車で走ると合計で分速何mかという問題です。正解は200mです。

球の問題同様、学んだことの意味がしっかり理解できているか、学んだことを生活で活かせるかを問われています。学んだことを理解し活用するには定義（決まり）や定理（証明された正しいこと）、公式を使って説明してしっかり学んだ内容を定着させていく必要があります。

その他、%などを扱う「割合」も苦手な児童が多い傾向がみられます。

文章題を解くためには、低学年から文章の意味を理解しながら問題を解かせる必要がありますし、説明する力をつけるには国語だけでなく、あらゆる教科で説明したり、考えをノートに書いたりすることを習慣づけていきたいと考えています。

また、活用力の土台となる基礎力として計算力もつけていく必要があるため、本校では、すべての学年で授業の最初に百マス計算など、計算練習をする時間をとっています。本調査や4、5年生が実施した「みえスタディチェック」を通して、子どもたちの学力や学習状況を把握し、全職員で苦手部分の克服のための対策を行っています。

これからも引き続き、家庭学習のご支援やご協力をお願いします。

【高山さんの文章】

みんな仲良く「たてわりはん」
わたしたちの学校には、「友達から友達までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取組もみられます。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人も仲良く なります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対でやります。上級生が下級生に伝えんのを教えたり、下級生も楽しむように、「たてわりはん」の取組もみられます。「みんなが仲良く活動する「たてわりはん」といふ言葉や、「下級生はいつも以上に楽しんで活動する」といふ言葉がみられます。このように「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになる ところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ 活動です。みんなが楽しむように、ちがう学年が、遊ぼういことを 予定して開いたり、準備もみられます。例えば、ドッジ ボールでは、上級生が下級生からボールを「とる」ようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
6年生がくふうしていること
○遊びのルールを明確に書く
○ルールをくふうする
ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる
下級生に届かないこと
○1年生 お兄さんがお姉さんと遊んで楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しんで遊べた

二 「高山さんの文章」は、次の「高山さんの文章」の「たてわり遊び」の取組の様子をまとめたものです。あなたも高山さんと同じように書いてみましょう。あなたの取組の様子を教えてください。

○「たてわり遊び」のよさをくふうすることを書くこと。
○「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたこととから3語程度文章を振り上げて書くこと。
六十字以上、百字以内でまとめて書くこと。

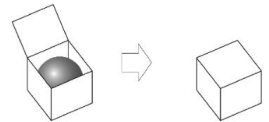
※上の図は補助線は書きませんので、使っても使わないでも構いません。 横書き、縦書きの両方に書かしてください。

※の枠から書きましょう。どちらの方向でも構いません。横で書きましょう。

(3) 直径22cmの球の形をしたボールがみえます。

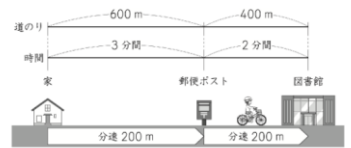


このボールがぴったり入る立方体の形をした箱の体積を調べます。



この立方体の形をした箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

(4) たけのさんは自転車で、家から郵便ポストの前まで図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。
郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。
家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。 答えを書きましょう。